

平成28年3月31日

## 平成27年度の主な事業報告

社会福祉法人 秀孝会

### 1 法人事業本部

平成29年6月に創立25周年の節目を迎えるにあたり、中短期事業計画の策定に向け協議を続けた。計画策定の主旨は今まで以上に良質なサービスや求められる事業を地域に提供することとし、その役割を果たすため、サービスの質について・職員の質について・経営についての3点を重点的に取り組んだ。

サービスの質については、利用者の尊厳に重点を置き、介護現場のみならず、事業全体でサービスの質の向上に努めた。例年に比べ高いレベルの目標を掲げ質も向上に努めたが、アセスメントや記録の充実等において向上が図られたが、全体的な目標達成には至らなかった。明確な実績を示せるよう引き続き努めることとする。

職員の質については、自ら考え、発し、行動する職員の育成を目指した。実践発表会等によりレベルが上がったと評価できる職員が増加した反面、一部ではあるがその評価を得られない職員もおり、人員確保の意味からもこれらの職員への指導等に力を注ぐ必要を強く感じた。

経営については、社会福祉法改正に伴う法人機能の強化や中短期事業計画の策定に向け協議を重ねた。年内に基本的な改正作業を終えることができるよう引き続き協議を重ねる。収益性の向上については、人材の確保が予定どおり進まない中、現場職員の日常の努力により利用率アップが図られた。地域貢献については、八幡市の生活困窮者就労準備支援事業に参画。この事業と一体的に行っている車椅子クリーンアップ事業についても地域への広報に努め、事業を推進していく。

### 2 第一事業部

#### (1) 特別養護老人ホーム京都ひまわり園、短期入所生活介護京都ひまわり園

ご利用者が望む尊厳のある生活、ニーズを把握するという事について、部屋担当を中心にご利用者のアセスメント強化を行い、アセスメント結果をケアプランに反映させた。ただ、アセスメントを行う枠組みはできたが、質を上げる事については不十分であり、引き続きご利用者の満足度を高める取り組みを行っていく。他に、多職種連携を図り、拘縮予防や歩行訓練など、少ない時間ではあるが個別に取り組むことができた。リハビリ知識や技術向上について、必要性などスタッフの意識向上には繋がっているが、全職員に満足いく状況まで到達していない現状である。今後は、得た知識を、より多くのスタッフに周知させ、実践していくことが課題である。

また、ご利用者の体調不良などの異常の早期発見に努めるなど、健康管理を徹底することで入院者を減らし利用率向上に努めた。

(2) 京都ひまわり園デイサービスセンター、八幡市ひまわり園在宅介護支援センター  
ご利用者のサービスニーズを定期的なケースカンファレンスを行い再確認した。ニーズの多い買物外出をはじめ、季節行事を定期的に行い今後も実施していくこととした。下半期に入り特に、老健入所や永眠等の利用中止者が増え、平成26年度は前年度対比の利用人数を上回ることができなかった。

八幡市より委託を受けた在宅介護支援センター活動として、配食事業や有智の郷ケアマネジメントセンターと連携を図りながら、相談窓口の展開を行っていった。

(3) ホームヘルパーステーション京都ひまわり園

質の向上を図る為に、利用者重視のサービスを行っていくために、ヘルパーの思いではなく利用者の思いに立ったサービス提供に努めた。サービス提供に際しては、他事業所やご家族にもご利用者の体調や状況を共有し易いように、サービス内容にとどまらず、サービス中のご様子も在宅ノートに記録することで体調変化の把握を行うことができた。また、事故や緊急時、災害発生時における対応マニュアルを再度見直し、在宅利用者の緊急時を想定したことで、在宅ノートに貼付していた緊急連絡票に災害時の避難場所を明記し、万一に備える対策を講じた。

年度途中まではスポットサービスの提供などで訪問実績を確保してきたが、下半期に入り、特養入所や入院、死亡などで利用中止となり利用がやや減少した。次年度には、新規利用者の受入れを行うことにより改善に努めることとする。

(4) グループホーム京都ひまわり園

認知症ケアについて毎月勉強会を実施し、振り返りを行うことで現場の実践内容に即した学びを行うことができ、知識や技術の習得に努めた。住み慣れた場所で気持ちよく過ごしていただくことを意識して、排泄や入浴介助等の基本的ケアに重点を置いた月目標を設定し、評価を行うことでチームとしての強みや弱みを明確にした。医療連携から、主治医・訪問看護師と情報共有を密に図り、定期的な健康相談を行い、平成27年度は1名の入居者の看取りを行った。また、現在18名中8名の入居者から看取りケア意向を受けており、入居者ニーズに応える事のできるスタッフのスキルアップや環境整備を着実に進めていく必要がある。

また昨年に引き続き、京都府より委託を受けた「認知症あんしんサポート相談窓口」を開設し、地域の認知症の相談窓口として活動を行った。

(5) ケアハウスポポロ21

入居者の重度化は進み、日常生活における介助量が更に増しているなか、外食や外出など可能な範囲で企画行事に努めた。苦情・要望受付書を設置し、より入居者のニーズや要望に対ししっかりと傾聴し、迅速に対応を行った。毎月のスタッフ会議にて情報を共有し、ケアについての検討を行った。行動障害に対し、ご家族や主治医とも連携を図り、ご協力をいただくことでポポロでの生活が継続できたケースも生じた。

4ヶ月間に延べ4室の空室が出たため、年間入所延数が596名であった。空室状況を定期的に関係機関に広報し、継続した相談対応を行うことに努めた。

### 3 第二事業部

#### (1) 特別養護老人ホーム有智の郷、短期入所生活介護有智の郷

利用者の尊厳に重点を置いたケアの実践をするために、昨年度から取組んだケアプラン記録の充実は定着してきた。今後は記録の内容、質に関して今後も改善していくことが課題である。また、入居者の生活意向を伺うカンファレンスに積極的にご家族の参加を呼びかけ調整し、昨年に比べご家族に参加していただけることが増え、よりの確に生活ニーズの把握に努めることができた。多職種間で連携を図り、体調悪化の要因に多い誤嚥性肺炎や尿路感染予防に努め、口腔ケア方法の技術向上や日々の情報共有を強化することで、入居者の健康・体調管理を徹底した。その結果、入院実人数は昨年と同じであったが、入院延日数は前年度比378日減と重症化に至るまでの対応がより行えた結果となった。

#### (2) 有智の郷デイサービスセンター

質の良いサービス提供を行うために、スタッフ間の情報共有不足の課題を、記録やミーティングの活用を強化することで情報共有の質を向上してきた。積極的に勉強会に参加し、介護技術、知識等の向上に努め、利用者本位のサービス提供及び尊厳の保持に配慮したサービスの提供を行った。家庭事情や病院受診等により予定利用が中止になった方には、積極的に振替利用を勧め、生活の質の維持を提供してきた。しかし、長期入院やショート利用の増加、施設入所などにより延利用者数は減少した。

また、八幡市より基準該当生活介護の障害者受入を継続して行い、地域福祉の向上に繋げていった。

#### (3) 有智の郷ケアマネジメントセンター、八幡市在宅介護支援センター有智の郷

随時の適切な相談対応が行えるよう、情報共有を行う仕組みはできている。ご利用者の状態変化に伴い迅速に訪問し、在宅診療医や各医療機関などと連携することで、ご利用者の望む住み慣れた自宅での生活を継続するプラン調整に努めた。ケアマネミーティングを通じ、事例検討・ケアプラン研究を行い、毎月担当者が発表していくことで支援の見直しを行えた。

八幡市より委託を受けた在宅介護支援センター活動では、地域の相談窓口として展開し、各関係機関と連携を図りながら、随時の介護相談や配食サービスに応じていける体制を維持した。また、介護予防事業「はつらつ健康教室」を実施し、認知症予防、下肢筋力維持、転倒予防に資する活動や地域情報の把握に努めた。